

今、紹介したい! 沼津の史跡②

広報ぬまづ2月15日号の「直撃シリーズ」でNHKの大河ドラマ「鎌倉殿の13人」に登場する人物に纏わる沼津の史跡を紹介しましたが、市内にはまだまだ登場人物ゆかりの史跡があります。今回も4つの史跡を紹介しますので、史跡をめぐりながら歴史を感じてみてはいかがでしょうか。

文化財センター ☎055-935-5010



アクセス方法は
こちらから

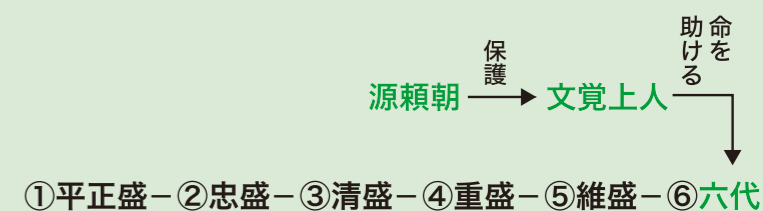
Q今回取り上げる登場人物は誰ですか?

A源頼朝と文覚上人です。源頼朝は征夷大將軍となり鎌倉幕府を開きました。市内にも富士の巻狩に関連する多くの伝説を残しています。文覚上人は頼朝に平家打倒を促した事で知られています。その後も頼朝の保護を受け、各地に寺院を創っています。

Q富士の巻狩とは何ですか?

A源頼朝が征夷大將軍たる権威を誇示する等の目的のため、現在の御殿場市・小山町・裾野市と富士宮市周辺で行った、狩りを兼ねた一大軍事演習です。巻狩は、鹿や猪などが生息する狩場を多人数で取り囲み獲物を射とめるもので、「狩競」とも呼ばれ、遊興や神事、軍事訓練として中世の武士の間で親しまれていました。

~各人物の相関図~



1 六代松の碑(東間門)

六代は平家の正統な後継者であったため、源頼朝に処刑されそうになりますが、東間門で文覚上人に助けられます。死後、家臣が遺骸をこの地にある松の根元に埋めて吊ったことから、松は「六代松」と呼ばれましたが江戸時代に枯れてしまい、代わりに石碑が建てられました。

2 金剛寺(西間門)

文覚上人が、平安時代末期に大日如来像を安置し創建しました。寺には江戸末期の彫刻師で沼津で活躍した、舟仙の作品といわれる狐面が伝わっています。

3 日枝神社(平町)

平安時代に大岡地区の莊園を治めていた関白藤原師通を弔うため、近江国(現・滋賀県)の日吉大社の御神霊を分祀して創建されました。絵巻物など数多くの宝物とともに、源頼朝が富士の巻狩を行った際に兵士のため炊き出しに使用したと伝わる大釜があります。

4 徳源寺(原)

富士の巻狩の際、源頼朝が原地区に陣屋を建てたといわれ、「御殿場」という地名が付近に残っています。のちに陣屋が寺に改められ、その後、徳源寺となりました。本堂の正面には、頼朝お手植えの松の三代目といわれる松があります。



3



1



4



2